

「小学校英語教科化に向けて：小学校 6 年生の  
英語の読み・書きに関する実態調査」  
**Toward teaching English as a regular subject in  
elementary schools: Investigation of 6<sup>th</sup> graders’  
reading and writing abilities**

田中真紀子

**要約**

本稿は船橋市内小学校 2 校の児童に対して行った英語の読み書き能力の実態調査の結果を報告するものである。We Can! 2 の一部を用いてリスニングテストを行い、当該の授業で慣れ親しんだ語や表現に加え、音素認識能力・音文字一致能力を測定する読み書き能力テストを学習指導要領の目標に準じて作成し対面式に実施した。リスニングテストと読み書き能力テストは総じて良好であったが、日本語の干渉を受けた文字の名前読みや、また音読みに関しては不十分な読みがいくつかあった。子どもたちの英語の読みの基礎を築くために、正確な名前読み、音読みの指導が必要である。

**1. はじめに**

小学校学習指導要領が平成 29 年に改定され、英語における知識及び技能の習得と、思考力、判断力、表現力などの育成を目的とした英語教育が令和 2 年より新たに始まった。これまで 5、6 年次で扱われていた「外国語活動」が 3、4 年次から始まり、5、6 年次では「外国語」が教科として取り入れられることとなった。「外国語活動」は「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、「コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」（文部科学省, 2017a, p. 173）を育成すること、「外国語」は「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」（文部科学省, 2017a, p. 156）を育成することを目標としている。どちらも子どもたちのコミュニケーション能力を育成することが英語教育の最大の目標であり、3、4年ではそのための「素地」、そして5、6年で「基礎」となるコミュニケーションの資質・能力を育成する。文部科学省は、3、4年次で「聞くこと」「話すこと」の活動を通して音声に慣れ親しませ、音声を通して学んだ英語を、5、6年生で「読むこと」と「書くこと」につなげたい意向である。

先進的な取り組みを行う研究開発学校や教育課程特例校では教科化を目前として、いち早く英語を教科として取り入れたり、独自の教材やカリキュラムを開発したりして英語教育を推進してきている。今回調査に当たった船橋市は、全54小学校が2008年に文部科学省教育課程特例校に指定されて以降、1年次より英語を教科として取り入れ、5、6年次ではフォニックス（アルファベットの音と文字の関係を扱うアプローチ）を用いた指導なども行っている。そこで、船橋市内の小学校児童の読み書き能力の実態を把握すべく本調査を行うこととなった。

本調査の読み書き能力テストは、学習指導要領（文部科学省, 2017a）の「読むこと」と「書くこと」（p. 157）の目標に準じて作成された。したがって、本稿ではまず、小学校英語教育における「読むこと」と「書くこと」の目標を明記する。また、読み書き能力テストは読みの基礎として欠かせない「音素認識能力」と「音文字一致能力」を測定している。これらは、読み書き能力を育成する上で重要な能力を構成し、読み書きの指導に欠かせない。

## 2. 新学習指導要領で導入された「読むこと」と「書くこと」の目標と内容

### 「読むこと」の目標

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味がわかるようにする。

### 「書くこと」の目標

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

学習指導要領の「読むこと」に関する目標には、「活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする」とある。「活字体で書かれた文字」というのは、アルファベットの Aa, Bb, Ccなどを指している。アルファベットの読みに関しては、【名前読み】と【音読み】がある。名前読みは、アルファベットにつけられた名称で、Aa, Bb, Ccを /ei/, /bi:/, /si:/と読むこと、【音読み】は Aaを /æ/, Bbを /b/, Ccを /k/と読むことである。学習指導要領の「読むこと」の目標アは、アルファベットの名前読みができるようにするということである。一方、語句や表現の意味がわかるようにするためには、それらを発音できる必要があるので、イの目標は、アルファベットの音読みができることを意味

している（文部科学省, 2017b, p. 78）。語は、名前読みだけではなく、音読みができなくては読めるようにならないので、高学年では名前読みと音読みの両方の指導が求められていることを意味する。

「書くこと」に関しては、『a, c, e』, 『f, l』, 『g, y』など文字の高さの違いを意識させたり、『p, q』, 『b, d』など紛らわしい形などを意識させたりするなど、指導の工夫をする必要がある」（文部科学省, 2017b, pp. 81-82）とある。

### 3. 音素認識能力および、音文字一致能力の育成の必要性

アルファベットの文字認識、そして音素認識能力の確保は読み書き能力の発達の基本で（Ehri & Nunes, 2002）、この知識の有無は子どもの読み書きの能力に影響することがわかっている（Piasta, Petscher, & Justice, 2012; Share, Jorm, Maclean, & Matthews, 1984; Treiman, Tincoff, & Richmond-Welty, 1997）。音素認識能力とは「音声が個々の音から成っているという理解」（“an understanding that speech is composed of a series of individual sounds”）（Yopp, 1992, 1995）で、例えば、cat は3つの音（c-a-t）、nest は4つの音（n-e-s-t）から成るという認識である（田中, 2017）。National Reading Panel（2000）が行った音素認識に関する研究によると、読みとスペリングの育成に音素認識能力が重要であり、子どもへの指導が欠かさない（Ehri, Nune, Willows, Schuster, Yaghoub-Zadeh, & Shanahan, 2001）。

音と文字を対応させ、読み方を学習するアプローチがフォニックス（phonics）である。文字と音の関係を把握するには、まず音素認識能力を高めることが重要で（アレン玉井, 2010; Zygouris-Coe, 2001）、その点、3、4年次でまず音声を中心とした英語教育を重視することは理に適っている。

### 4. 本調査の背景

船橋市では英語教育の充実、推進を図るべく、「船橋市英語教育推進事業」が英語教育推進委員会のもと行われている。本調査は、船橋市英語教育推進事業の

小学校英語教科化に向けて：  
小学校6年生の英語の読み・書きに関する実態調査

重点事項である「児童・生徒の英語学習に対する意識や英語力を把握・検証し、実態に合った指導方法や評価方法の工夫・改善を図る」（「令和元年 第1回船橋市英語教育推進委員会」資料）ことを目的とし、平成28（2016）年度 第1回船橋市英語教育推進事業において、神田外語大学児童英語教育研究センターが、船橋市教育委員会の協力を得て、市内小中学校の児童生徒の英語学習に対する意識や英語力を把握すること、またこれらの授業を担当している教員（担任・ALT・JC）の英語教育に対する意識を調査することから始まった。今回の調査は、その継続として行われた実態調査である。

今回の調査では児童の読み書き能力を測定すべく、6年生児童を対象に個別にテストした。2020年度の英語教科化で「読むこと」と「書くこと」が本格的に導入される前に教員が読み書きに関する知識とその指導方法を身につけておく必要があり、今回の結果をそのための指針とすること、そして船橋市内小学校の英語授業が、中学校の英語授業へと円滑に結びつくよう英語教育を推進することを目的として行われた。

## 5. 千葉県船橋市の現状と英語教育方針

調査が行われた2019年は、小学校のすべての英語の授業にALT（計55名、内派遣委託53名、直接雇用2名）が配置されていた。加えて、日本人のコーディネーター（JCと略されている）が1～4年は隔週ですべての授業、5、6年では隔週で週1コマ（45分）の授業に入り、ALTと担任教員のサポートを行っていた。JCの人数は36名で、レッスンプランや教材を作成する任務を負っていたが、授業は原則、すべての学年で学級担任が主導してALTとのティームティーチングで進めることとなっていた。

本調査が行われた2019年度、船橋市内小学校では、教育課程特例により1～4年は、「生活科」から週1回20分、年17.5時間、そして5、6年は移行措置により、週1回45分（年35時間）に加えて「総合的な学習の時間」から15時間の

年間合計 50 時間の授業が行われていた。使用された教材は 1、2 年は船橋市が独自で開発した教材 (『船橋カリキュラム』)、3、4 年は *Let's Try!* そして 5、6 年は *We Can!* であった。3~6 年は必要に応じて『船橋カリキュラム』や *Hi, friends!* 1・2 が活用された。

## 6. 研究方法

### 6. 1 目的

今回の調査は、文部科学省の「外国語」の目標をどれくらい達成できているか、すなわち、「読むこと」に関して、1. 活字体で書かれた文字を識別できるか、2. その読み方を発音することができるか、3. 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んで意味がわかるか、また「書くこと」に関しては、4. 大文字、小文字を活字体で書くことができるかどうかテストした。これにより、文字と音を一致させる能力が十分に備わっているか、そして 6 年生の英語授業で既習の英単語・英語表現の読み、書きはどれくらい習得されているか測定した。

### 6. 2 対象者

2016 年度に、船橋市内小学校 54 校の 5、6 年生を対象に行った第 1 回調査 (語彙テスト及び音文字一致テスト) の結果より、学校ランキングが中位 (船橋市内の平均的な小学校) であった H 小学校 (6 年生 4 クラス、総児童数 129 名) から 16 名 (男子 7 名、女子 9 名)、W 小学校 (6 年生 5 クラス、総児童数 172 名) から 20 名 (男子 11 名、女子 9 名) の合計 36 名 (男子 18 名、女子 18 名) を対象に一人ずつ個別に読み書きテスト実施した。児童はそれぞれのクラスから 4 名ずつ、各クラス担任が事前に実施されたアンケートに基づき選出した。

対象者 36 名は、アンケート調査時点で英語塾や英会話学校に通っていないと回答した児童である。英語塾や英会話学校に通っている児童は、高学年では英語

小学校英語教科化に向けて：  
小学校6年生の英語の読み・書きに関する実態調査

の読み書きをすでに教わっている可能性があり、小学校において読み書きを始めて学ぶ児童とは性質が異なる。今回の調査目的は船橋市児童全体の英語の読み書き能力を推測するものではなく、小学校英語教育の実態を把握し、問題があれば改善しようとするものであったため、調査時点で民間の学校に通っている児童は対象外とした。

### 6. 3 調査方法と内容

#### 調査方法

船橋市教育委員会の依頼を受け、調査研究に際し本学の研究倫理審査の承認の報告を得てから、小学校校長、保護者および児童の同意を得た。まず、1) 調査者（筆者）が両小学校を訪問し授業観察を行った。授業観察は、読み書きのテストにおいて、「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んで、意味がわかるかどうか」をテストするためである。児童が学習していない語句が読めるかどうかは、学習指導要領の目的にはなっていないため、語句や表現をテスト問題として抽出するのに授業参観は必要不可欠であった。授業はH小学校の4クラス、そしてW小学校の5クラス全てを参観した。2) H小学校、W小学校全てのクラスの活動の目標、活動内容、教員や児童の発言をフィールドノートとして記録し、全クラスビデオ録画した。授業観察時、両学校とも、*We Can! 2 Unit 5 My Summer Vacation* を扱っていた。3) 読み書きテスト用の語彙・表現の選択のため、同Unitで、両学校とも授業で扱わなかった*Let's Listen*（参考資料B）を授業の一環でテストとして実施してもらった。4) リスニングテスト終了後に裏面のアンケート（参考資料B）に回答してもらった。5) アンケート内容をもとに、各学校の6年次担任教員の協力を得て、同意書にて署名をもらった児童、および「現在英語の塾等に通っていない児童」をそれぞれクラスから4名ずつ選出した。その後、6) 各小学校にて、個別面談による読み書きテストを実施した。

## 調査内容

### 【A】リスニングテスト&アンケート

リスニングテストに使用した *We Can! 2 Unit 5 My Summer Vacation Let's Listen* (p. 37) は、音声（以下枠線内）に従ってそれぞれ3人の子どもたちがどのように夏休みを過ごしたか、絵を線で結ぶ形式で、子どもたちの名前（3人）を含めそれぞれの選択肢（5つ）を1点とし、合計15点満点とした。テストにかかる時間は、この後のアンケートの回答を含めて5分程度である。

**Saki:** Hi, I'm Saki. I went to the sea with my family. I enjoyed swimming. I ate watermelon. It was fun.

**Satoshi:** Hi, I'm Satoshi. I went to the countryside. I enjoyed fishing. I ate obento. It was exciting.

**Kenta:** Hi, I'm Kenta. I went to the city. I enjoyed shopping. I ate ice cream. It was delicious.

リスニングテストは授業で扱われた簡単な語句や基本的な表現を聞いて理解できるかどうか（音声で十分に慣れ親しんでいるかどうか）を確認し、それと同時に、読み書きテストに出題する語や表現をその中から選択するために行われた。

アンケートは、児童が英語の塾や英会話学校に通っているか、英語の塾や英会話学校で簡単な単語の読み方を教わったか回答してもらい、また、アルファベットの「名前読み」、「音読み」、「簡単な単語」の読みができるかなどを4件法（1. 全部言える、2. だいたい言える、3. 半分くらい言える、4. あまり言えない）で自己評価してもらった。



## 【B】読み書きテスト

読み書きテスト（参考資料 C）では、A. アルファベットの音の認識（phonemic awareness）があるか、B. アルファベットの文字と音の関係（phonics）を把握しているか、アルファベットの名前読み、音読みを大文字、小文字ともに正しく聞き、読み、書くことができるか、C. 音声で慣れ親しんだ簡単な単語を読めるか、D. 音声で慣れ親しんだ簡単な文を読めるかを筆者が口頭でテストした。A の(1)から(3)は音素の違い（例えば、(1)は city と shity を聞いて、絵を表している音はどちらかを選ぶ）、(4)から(6)は単語の聞き分け（例えば、(4)は vest と言って、best と vest のどちらかの絵を選ぶ）、B の(7)から(15)は大文字の名前読みに関する問題で、(7)から(9)は文字の識別（例えば、(7)は E /i:/と聞いて I と E のどちらを聞いたか答える）、(10)から(12)は読み方（N, K, J）がわかるか、(13)から(15)は D, L, W を聞いて書けるかテストした。B の(16)から(24)は小文字の名前読みに関する問題で、(16)から(18)は文字の識別（例えば、(16)は b /bi:/と聞いて b と d のどちらを聞いたか答える）、(19)から(21)は読み方（c, s, o）を発音できるか、(22)から(24)は u, g, h を聞いて書けるかテストした。B の(25)から(33)は大文字の音読み、また(34)から(42)は小文字の音読みに関する問題で、名前読みで出題したアルファベットと同じ文字の音読みについてテストした。音読みの方では、名前読みで出題した文字ではない、もう一方の文字を聞いた（例えば、(25)では I /i/と言って、E ではなく I を選ばせる）。(43)から(52)は文字を組み合わせ読ませた後、それが何を表しているか絵を選ばせた。しかし、絵を見て文字を読んだ児童が含まれていたため、今回の分析では割愛することにした。

C の単語の読み(53)から(57)に関しては、当該のUnitとそれ以前に音声で慣れ親しんでいる city, fishing, melon, swimming, water を出題した。また D の文の読みに関してはリスニングテストで出題された文(58)と、(59)は I enjoyed の後に当該Unitに出てきた hiking を入れた。

読み書きテストは児童がストレスを感じないように、絵カード（参考資料 A）

を使って聞こえた英語の絵を選ばせるなど工夫した。アルファベットは、形が混同しやすい文字や日本語に存在しない音を出題した。採点は1問1点とし、文字と音の関係に関して、名前読みでCを/シー/（正しくは/si:/）、またOを/オ（一）/（正しくは/oo/）と読んだら不正解とした。Oは音読みで/a/だが、/オ/と言った場合、/a/と音素が近いので正解とした。単語の読みでは、cityの/s/を/シ/と読んだら不正解とした。一方、文の読みは、seaの/s/、familyの/f/を正しく発音できなくても全体が読めれば正解とした。

## 7. 分析結果

ここではリスニングテストとアンケート調査の結果を学校別にまとめる。学校別にすると、児童の音声聞き取り力が学校間で大きな違いがないことがわかる。読み書きテストに関しては、2校を合わせ、36名のデータを統計分析した。

### H小学校の結果

#### リスニングテストの結果

リスニングテストの信頼性は、クロンバック  $\alpha = .914$  で十分な信頼性を得た。リスニングの項目別正答数と平均値は以下の通りである（表1）。学習到達度テストであり、全体の平均が15点満点中13.71で高い正答率（91.4%）だったことから、授業で勉強したことがよく理解されていると同時に、既習の語や表現の音声に十分慣れ親しんでいることがわかった。平均以下だったものは、Satoshi, countryside, obento, Kenta, cityであった。

Satoshi, Kentaに関しては、テスト用紙に描かれた2人の男の子の名前がSatoshiかKentaか読めなければ回答できない。これは聞き取り問題ではなく、アルファベット（ローマ字）を読めるか読めないかの問題である。両者は標準偏差が他の項目より大きいので、正解できた児童とできなかった児童の差にばらつきがあることがわかる。

小学校英語教科化に向けて：  
 小学校6年生の英語の読み・書きに関する実態調査

H 小学校の4クラスからそれぞれ4名ずつ児童を選出するにあたり、クラス間に大きな差がないか平均値の分散分析をしたところ有意な差はなかった ( $F(3, 125) = 2.569, p = .057$ )。

表1 リスニングの項目別平均値と正答率

リスニング項目	度数	合計	平均値	標準偏差	パーセント
Saki	129	120	.93	.256	93.0
sea	129	121	.94	.242	93.8
swimming	129	122	.95	.227	94.6
watermelon	129	123	.95	.211	95.3
fun	129	122	.95	.227	94.6
Satoshi	129	106	.82	.384	82.2
countryside	129	106	.82	.384	82.2
fishing	129	118	.91	.280	91.5
obento	129	117	.91	.292	90.7
exciting	129	118	.91	.280	91.5
Kenta	129	116	.90	.302	89.9
city	129	116	.90	.302	89.9
shopping	129	120	.93	.256	93.0
icecream	129	122	.95	.227	94.6
delicious	129	122	.95	.227	94.6
total	129	1768	13.71	2.810	91.4

### アンケート調査の結果

アンケート項目で4件法の、2) アルファベットの文字の「名前」は言えますか、3) アルファベットの文字の「音」は言えますか、4) 教科書に出てきた英語の単語は読めますかに関する信頼性は、クロンバック  $\alpha = .812$  で十分な信頼性を得た。クロス集計の結果、「現在」英語の塾や英会話学校に通っていると回答した児童は45名（全体の35%）（通っていないと回答した児童は83名、全体の65%）、「以前」英語の塾や英会話学校に通っていたと回答した児童は、17名（全体の23%）で、合わせて全体の58%が塾等で英語を勉強した経験があるという回答であった。

「現在」英語の塾や英会話学校に通っている児童の41名（98%）が、「簡単な単語の読み方」を習ったと回答し（習っていないと答えたのは、1名のみ（2%））、

「以前」英語の塾や英会話学校に通っていた児童の13名(87%)が、「簡単な単語の読み方」を習ったと回答した(習っていないと答えたのは、2名のみ(13%))。これより塾通いの経験がある児童のほとんどが英語の読み書きを習っていることがわかった。

英語の塾や英会話学校に通っていて、アルファベットの「名前」の読み方が「全部言える」と回答した児童は、43名(96%)、英語の塾や英会話学校に通っていないが「全部言える」と回答した児童は、45名(54%)だった。

英語の塾や英会話学校に通っている児童で、アルファベットの「音」の読み方が「全部言える」と回答した児童は30名(67%)、英語の塾や英会話学校に通っていない児童の場合「全部言える」と回答したのは20名(24%)で、音読みに関しては割合が低かった。

英語の塾や英会話学校に通っている児童で、「教科書に出てきた英語の単語」が「だいたい読める」と回答した児童は、40名(89%)、英語の塾や英会話学校に通っていない児童の場合「だいたい読める」と回答した児童は、25名(30%)だった。

アルファベットの「名前読み」と「単語の読み」の相関を見たところ  $r = .484$ 、アルファベットの「音読み」と「単語の読み」は  $r = .648$  (共に  $p < .01$ ) で相関が見られ、特に「音」の読み方を知っている児童は、「単語の読み」もできることがわかった(表2)。

表2 アルファベットの名前読み、音読みと単語の読みの相関 (N=129)

	1.	2.	3.
1. アルファベットの名前読み	1		
2. アルファベットの音読み	.650**	1	
3. 単語の読み	.484**	.648**	1

\*\* $p < .01$

## W小学校の結果

### リスニングテストの結果

リスニングテストの信頼性は、クロンバック  $\alpha = .853$  で十分な信頼性を得た。リスニングの項目別正答数と平均値は以下の通りであった（表3）。正答率が93.2%より、既習単語に十分慣れ親しんでいることがわかった。平均以下だったものは、Satoshi, countryside, fishing, obento, exciting, Kenta, city, shopping であった。この中で、countryside は授業で扱われていなかったことをテスト後専科教員から聞いた。

W小学校の5クラスからそれぞれ4名ずつ児童を選出するにあたり、クラス間の英語力に大きな差がないか平均値の分散分析をした結果、有意な差はなかった ( $F(4, 167) = .605, p = .659$ )。

表3 リスニングの項目別平均値と正答率

リスニング項目	度数	合計	平均値	標準偏差	パーセント
Saki	172	167	.97	.168	97.1
sea	172	167	.97	.168	97.1
swimming	172	171	.99	.076	99.4
watermelon	172	169	.98	.131	98.3
fun	172	165	.96	.198	95.9
Satoshi	172	152	.88	.321	88.4
countryside	172	152	.88	.321	88.4
fishing	172	160	.93	.255	93.0
obento	172	160	.93	.255	93.0
exciting	172	155	.90	.299	90.1
Kenta	172	150	.87	.335	87.2
city	172	150	.87	.335	87.2
Shopping	172	158	.92	.274	91.9
icecream	172	166	.97	.184	96.5
delicious	172	162	.94	.235	94.2
total	172	2403	13.97	2.164	93.2

### アンケート調査の結果

アンケート項目で 4 件法の、2) アルファベットの文字の「名前」は言えますか、3) アルファベットの文字の「音」は言えますか、4) 教科書に出てきた英語の単語は読めますかに関する信頼性は、クロンバック  $\alpha = .801$  で十分な信頼性を得た。クロス集計の結果、「現在」英語の塾や英会話学校に通っていると回答した児童は 63 名（全体の 37%）、（通っていないと回答した児童は 107 名（全体の 63%））で、「以前」英語の塾や英会話学校に通っていたと回答した児童は 43 名（全体の 25%）だった。「現在」と「以前」を合わせて、合計 62%が英語の塾や英会話学校で英語を勉強した経験があった。

「現在」英語の塾や英会話学校に通っている児童の 60 名（95%）が「簡単な単語の読み方」を習った（習っていないと答えたのは 3 名のみ（4.8%））、そして、「以前」英語の塾や英会話に通っていた児童の 38 名（95%）が「簡単な単語の読み方」を習ったと回答した（習っていないと答えたのは 2 名のみ（5%））。塾等に通っていた児童のほとんどは英語の読み書きを習っていた。

英語の塾や英会話学校に通っている児童で、アルファベットの名前読みが「全部言える」と回答した児童は 58 名（94%）、音読みが「全部言える」と回答した児童は、41 名（65%）だった。塾や英会話学校に通っていない児童の場合、名前読みが「全部言える」と回答した児童は、77 名（72%）、音読みが「全部言える」と回答した児童は 36 名（34%）だった。

英語の塾や英会話学校に通っている児童で、「教科書に出てきた英語の単語」が「だいたい読める」と回答した児童は 47 名（75%）、塾や英会話学校に通っていない児童では「だいたい読める」と回答した児童は、55 名（51%）だった。

相關（表 4）に関して、アルファベットの「名前読み」と「単語の読み」の相関係数は  $r = .486$ 、アルファベットの「音読み」と「単語の読み」では  $r = .642$ （共に  $p < .01$ ）で相關が見られ、特に音読みを知っている児童は、「単語の読み」もできることがわかった。

小学校英語教科化に向けて：  
 小学校6年生の英語の読み・書きに関する実態調査

表4 アルファベットの名前読み、音読みと単語の読みの相関 (N = 172)

	1.	2.	3.
1. アルファベットの名前読み	1		
2. アルファベットの音読み	.617**	1	
3. 単語の読み	.486**	.642**	1

\*\* $p < .01$

### 読み書きテストの結果

ここでは、H小学校（16名）とW小学校（20名）を合わせて、合計36名の読み書きテストの結果を記す。読み書きテストの信頼性は、クロンバック  $\alpha = .868$  で十分な信頼性を得た。

### A アルファベットの【音】の認識 (phonemic awareness) の分析結果

アルファベットの音の認識（表5、図1）より、(6) f と h (food と hood) の聞き分けの平均値が一番低かった。/hod/と聞いて hood の絵（参考資料 A 参照）を選ぶことができた児童はわずか 33%だった。また(3)と(5)は /l/ と /r/ の音の聞き分けをテストしているが、平均点が比較的 low だった。

表5 アルファベットの音の認識

	度数	合計	平均値	標準偏差
(1) city_shity	36	26	.72	.454
(2) fan_fun	36	24	.67	.478
(3) icecream_icecream	36	22	.61	.494
(4) best_vest	36	27	.75	.439
(5) right_light	36	23	.64	.487
(6) food_hood	36	12	.33	.478

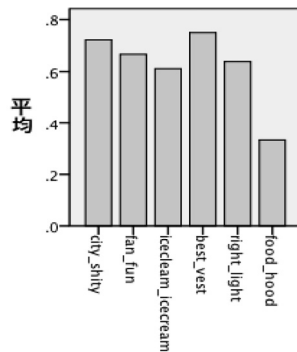


図1 アルファベットの音の認識

## B アルファベットの文字と音の関係 (phonics) の分析結果

表6は名前読みで、大文字(7)から(15)に関して、まず(7)から(9)は聞いてわかるか、(10)から(12)は読める(発音できる)か、(13)から(15)は聞いて書けるかを分析した結果を表している。表6より、(9) BとVの名前読みの区別に関して58.3%で低い正答率となった。また、(11) Kや(12) Jをそれぞれ「ケー」「ジェー」と読んだ児童が数名いた。アルファベットを聞いて書くことは、読むことより点数が低い、出題された文字に関しては一人だけDの鏡文字を書いた児童がただけで、全体的に正答率は高い。

続いて、小文字(16)から(24)に関して、(16)から(18)は聞いてわかるか、(19)から(21)は読める(発音できる)か、(22)から(24)は聞いて書けるか見てみると、(19) cや(21) oの名前読みの正答率が低く、「シー」や「オー」と日本語的な読みになっている児童が多くいた。また(23) gをzと書いていた児童が複数いた。

表7は音読みで、大文字(25)から(33)に関して、まず(25)から(27)は聞いてわかるか、(28)から(30)は読める(発音できる)か、(31)から(33)は聞いて書けるかを表している。(25) は /l/ を聞いてEを答えた児童が多かった。(27)の B/Vに関しては、/b/ をVと答えた児童がいた。また(28)のNの音を知らない児童がかなりいた(正答率 64%)。(32)は正答率が 64%で、L /l/ の音を聞いて R を書く児童が多かった。

小文字(34)から(42)で、(34)から(36)は聞いてわかるか、(37)から(39)は読める(発音できる)か、(40)から(42)は聞いて書けるかを表している。(34) b-dに関しては、聞いてわかっても、文字を識別できていない児童がいた。その他(39) oの音 /ɑ/ を「オー」名前読みと混同していた。uの音 /u/ を聞いて、uと書くことができた児童は36名中わずか1名で、他の児童は、aと書いた。



小学校英語教科化に向けて：  
 小学校6年生の英語の読み・書きに関する実態調査

表6 アルファベットの文字と音の関係 表7 アルファベットの文字と音の関係

(名前読み)

	度数	合計	平均値	標準偏差
(7) I_E_name	36	35	.97	.167
(8) G_Z_name	36	35	.97	.167
(9) B_V_name	36	21	.58	.500
(10) N_name	36	34	.94	.232
(11) K_name	36	35	.97	.167
(12) J_name	36	33	.92	.280
(13) D_name	36	33	.92	.280
(14) L_name	36	31	.86	.351
(15) W_name	36	31	.86	.351
(16) bd_name	36	32	.89	.319
(17) qp_name	36	31	.86	.351
(18) ft_name	36	36	1.00	.000
(19) c_name	36	17	.47	.506
(20) s_name	36	35	.97	.167
(21) o_name	36	12	.33	.478
(22) u_name	36	27	.75	.439
(23) g_name	36	21	.58	.500
(24) h_name	36	28	.78	.422

(音読み)

	度数	合計	平均値	標準偏差
(25) IE_sound	36	10	.28	.454
(26) GZ_sound	36	34	.94	.232
(27) BV_sound	36	23	.64	.487
(28) N_sound	36	23	.64	.487
(29) K_sound	36	25	.69	.467
(30) J_sound	36	25	.69	.467
(31) D_sound	36	30	.83	.378
(32) L_sound	36	23	.64	.487
(33) W_sound	36	31	.86	.351
(34) bd_sound	36	25	.69	.467
(35) qp_sound	36	31	.86	.351
(36) ft_sound	36	35	.97	.167
(37) c_sound	36	27	.75	.439
(38) s_sound	36	29	.81	.401
(39) o_sound	36	24	.67	.478
(40) u_sound	36	1	.03	.167
(41) g_sound	36	26	.72	.454
(42) h_sound	36	27	.75	.439

### C 単語の分析結果

ここでは、音声に慣れ親しんだ単語が読めるかどうか調べた(表8)。(53)City という語はこのUnitの前にも何度か出てきており、音声で慣れ親しんでいると思われるが、多くの児童はcの音を/j/と読んだ。これは日本語からの干渉であるが、一方でcuteやkitty、「キャティ」と読んだ児童もいた。これは、cの音 /k/ をヒントに読んだため、英語圏ではこのような間違いは批判的に考えず、cの音読みを習熟しているとむしろ好意的に捉えている。(55)melonと(57)waterは当該Unitで音声で慣れ親しんだwatermelonを2語に切り離してそれぞれ読めるか問うたものである。Watermelonはリスニングテストの結果から、音声で慣れ親しんでおり、絵を見れば英語で言えるし聞いてもわかるが、(57)waterの正答率が56%と低いこ

とから、名前を聞いてわかり絵で見てわかることが読むことに直接つながらなかったことがわかった。

表 8 音声で慣れ親しんだ単語が読めるか

	度数	合計	平均値	標準偏差
(53) city	36	13	.36	.487
(54) fishing	36	26	.72	.454
(55) melon	36	27	.75	.439
(56) swimming	36	29	.81	.401
(57) water	36	20	.56	.504

#### D 文の分析結果

ここでは文を読めるかをテストしているので、(58)の文中の *sea* を /ʃi:/ と発音しても正解としたが、*eat* や *set* と読んだ場合は意味が違ってしまうので不正解とした。(59)の文中の *hiking* はヒッキングと発音した児童が2名いた。(58)の *I went to the went* を *want* と読んだ児童が半数近く(17名)いたことから、英語の読み(音)が意味と直結していないことがわかった(表9)。

表 9 音声で慣れ親しんだ文が読めるか

	度数	合計	平均値	標準偏差
(58) I went to the sea with my family.	36	11	.31	.467
(59) I'm Satoshi. I enjoyed hiking.	36	18	.50	.507

## 8. 考察と結論

今回のアンケート調査では、全体の約6割が、塾や英会話学校での学習経験があり、そのうちのほとんど(9割以上)が単語の読み方を習っていた。そして彼らのほとんど(9割以上)がアルファベットの名前読みが全部言えると回答した。

小学校英語教科化に向けて：  
小学校6年生の英語の読み・書きに関する実態調査

一方、単語の読みに関して8割強が「だいたい読める」と回答したが、音読みに関しては、全部言えると回答した児童は6割強であったことから、児童は音素を認識して読んでいるというより、語の形や、教科書の絵などを手がかりとして読んでいる可能性がある。

塾や英会話学校に通った経験がない児童に関しては、名前が全部言えると答えた児童はH小学校では5割強、W小学校が7割、音読みが全部言えると答えた児童は、H小学校は2割強、W小学校は3割強で、塾等に通っている児童との違いが明らかとなった。相関関係の分析では、アルファベットの音読みと単語の読みに高めの相関が見られることから、アルファベットの音の認識を深めることが単語の読みの習得に重要であることがわかった。

今回のアンケート調査より、英語の塾等に通っている児童を読み書きテストの対象から外し、小学校の英語の授業だけを受けた児童の読み書きの能力の測定をしたことで、小学校における英語教育の成果の一端を見ることができたと同時に、塾等に通っていない児童との差も明らかになったことから、塾等に通っていない児童の英語学習が遅れを取らないように支援が必要である。

読み書き能力に関しては、音素認識能力や音と文字を一致できる能力が読みの基本であることを踏まえて、特に日本語に存在しない音（f-h, l-r, b-v, sh）に関しては指導者が意識して正確に発音させ、また音と文字の関係を名前読み、音読みともにしっかり身につけるようにさせたい。また、今回の調査で、watermelonの例に見られるように、聞いてわかり、絵を見て何かが言えても、直接読むことにはつながらないこと、また went to を want to と読む児童が半数も存在したことから、児童は以前聞いた表現を口に出すが、それは文字とも文の意味とも一致しておらず、音声で聞いた意味を漠然としか記憶していないのか、読む際に口に出した英語の意味を考えていないこと、すなわち学習した英語音声と意味が一致していないことがあることが明らかとなった。

読んだり書いたりする能力は音声を聞いているだけでは身につかない。文字の

読み方を教えなければ読めるようにならないのである。このことは、英語が書かれた絵カードを見せ音声練習をするだけでは不十分であることを意味する。児童はその文字を読めるような気になっているだけで、実際は文字を読んでいるのではなく、絵を見ているだけである。英語が小学校において教科となり「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味がわかる」ようにするために、音と文字の関係を、まずは音素認識から、そして音とアルファベットの文字の関係、そしてその組み合わせでまずは、3文字程度からなる簡単な語などを使って意味を考えながら正確に読む指導をすることを推奨する。

## 謝辞

本調査は、船橋市教育委員会の協力のもと行われました。本調査にご協力くださいました小学校の先生方、保護者そして児童の皆様に感謝の意を表します。

## 参考文献

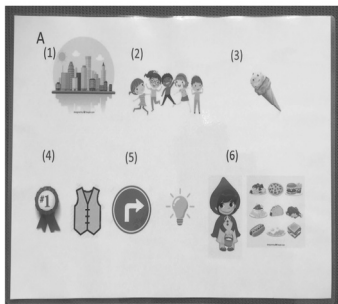
- アレン玉井光江(2010). 『小学校英語の教育法：理論と実践』 大修館.
- 文部科学省(2017a). 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』
- 文部科学省(2017b). 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動  
・外国語編』
- 田中真紀子(2017). 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』 研究社.
- 文部科学省(2018). *We Can! 1 & 2* 新学習指導要領対応 小学校外国語教材.
- Ehri, L., Nunes, S., Willows, D., Schuster, B., Yaghoubzadeh, Z., & Shanahan, T. (2001).  
Phonemic awareness instruction helps children learn to read: Evidence from the  
National Reading Panel's meta-analysis. *Reading Research Quarterly, 36*, 250-287.
- Ehri, L. C., & Nune, S. R. (2002). The role of phonemic awareness in learning to read. In  
S. J. Samuels, & A. E. Farstrup (Eds.), *What research has to say about reading  
instruction* (3rd ed.), (pp. 110-139). Newark, DE: International Reading Association.
- National Reading Panel (2000). *Report of the National Reading Panel: Teaching children  
to read: An evidenced-based assessment of the scientific research literature on  
reading and its implications for reading instruction*. U.S. Department of Health and  
Human Services, Public Health Service, National Institutes of Health, and National  
Institute of Child Health and Human Development.
- Piasta, S. B., Petscher, Y., & Justice, L. M. (2012). How many letters should preschoolers  
in public programs know? The diagnostic efficiency of various preschool letter-  
naming benchmarks for predicting first-grade literacy achievement. *Journal of Educational  
Psychology, 104*(4), 945-958. doi:10.1037/a0027757
- Share, D. L., Jorm, A. F., Maclean, R., & Matthews, R. (1984). Sources of individual  
differences in reading acquisition. *Journal of Educational Psychology, 76*(6), 1309-  
1324. doi: 10.1037/0022-0663.76.6.1309

- Sylvén, L. K., & Sundqvist, P. (2016). Validation of a test measuring young learners' general L2 English vocabulary knowledge. *Novitas-ROYAL (Research on Youth and Language)*, 10(1), 1-23.
- Treiman, R., Tincoff, R., & Richmond-Welty, E. D. (1997). Beyond zebra: Preschoolers' knowledge about letters. *Applied Psycholinguistics*, 18(4), 391-409.  
doi: org/10.1017/S0142716400010900
- Yopp, H. K. (1992). Developing phonemic awareness in young children. *The Reading Teacher*, 45(9), 696-703.
- Yopp, H. K. (1995). A test for assessing phonemic awareness in young children. *The Reading Teacher*, 49(1), 20-29.
- Zygouris-Coe, V. (2001). *Phonemic awareness: FLaRE document #2-001*. Orlando, FL: Florida Literacy and Reading Excellence Center, University of Central Florida.

小学校英語教科化に向けて：  
 小学校6年生の英語の読み・書きに関する実態調査

参考資料 A 読み書きテストに使われたイラスト


アルファベットの音の認識（音素認識）





参考資料 B リスニングテスト&アンケート

リスニングテスト 6年\_\_組 出席番号\_\_番 名前\_\_\_\_\_
















登場人物がどんなことをしたのかを聞いて、線で結んでください。

  
 Saki

  
 Satoshi

  
 Kenta

			
			
			
			
fun	exciting	cool	delicious

アンケート

次の質問を読んで、あてはまるものに○をつけてください。

- 現在、英語の塾（じゅく）や英会話学校に通っていますか。はい・いいえ  
 「はい」と答えた人に聞きます。  
 ①何才の時から通っていますか。 ( 才) の時から  
 ②合計何年くらい通っていますか。 ( 年間)  
 ③そこで簡単な単語の読み方を習いましたか。 はい・いいえ  
 「いいえ」と答えた人に聞きます。  
 ①以前、英語の塾や英会話学校に通っていましたか。 はい・いいえ  
 ②何才から何才まで通っていましたか。 ( 才から 才まで)  
 ③その時、簡単な単語の読み方を習いましたか。 はい・いいえ
- アルファベットの文字の「名前」は言えますか。  
 (例: a→「エイ」、b→「ビー」、c→「シー」、など)  
 1. 全部言える  
 2. だいたい言える  
 3. 半分くらい言える  
 4. あまり言えない
- アルファベットの文字の「音」は言えますか。  
 (例: a→「ア」、b→「ブ」、c→「ク」、など)  
 1. 全部言える  
 2. だいたい言える  
 3. 半分くらい言える  
 4. あまり言えない
- 教科書に出てきた英語の単語は読めますか。  
 1. だいたい覚める  
 2. 少し読める  
 3. あまり読めない  
 4. 全然読めない
- 英語に関してもっと勉強したいこと、教えて欲しいことなどはありますか、自由を書いてください。

参考資料 C

「読み書き」評価用紙

\_\_\_\_小学校 \_\_\_\_年 \_\_\_\_組 Name. \_\_\_\_\_日付 \_\_\_\_/\_\_\_\_/\_\_\_\_

太字は試験者が読説の単語 (A) の絵を使用)

A アルファベットの音の認識 (phonemic awareness)			
問題	解答	問題	解答
聞いて違いがわかる。(言葉) (絵を表している音はどっち？1番目？2番目？)	(1) city shity	(2) fan fun	(3) ice cream ice cream
聞いて違いがわかる。(単語) (1と4の絵を言ったか？聞こえた方の絵を選んで。)	(4) best vest	(5) right light	(6) food hood

太字は試験者が読説の単語 (B) のアルファベット用紙を使用)

B アルファベットの文字と音の関係 (phonics)				
【名前】	問題	解答	問題	解答
大文字	(7) I E	(8) G Z	(9) B V	
文字の識別 聞いてわかる ([今どっちを聞いた？では今度は？])	(10) N	(11) K	(12) J	
読み方を発音できる (読んでください)	(13) D	(14) L	(15) W	
聞いて書ける (書いてください)	(16) b d	(17) q p	(18) f t	
小文字	(19) c	(20) s	(21) o	
読み方を発音できる (読んでください)	(22) u	(23) g	(24) h	
聞いて書ける (書いてください)				

【行】	文字の識別 聞いてわかる ([今どっちを聞いた？では今度は？]) <th>読み方を発音できる (読んでください) <th>聞いて書ける (書いてください) <th>文字の識別 聞いてわかる ([今どっちを聞いた？では今度は？]) <th>読み方を発音できる (読んでください) <th>聞いて書ける (書いてください) <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th> </th></th></th></th></th>	読み方を発音できる (読んでください) <th>聞いて書ける (書いてください) <th>文字の識別 聞いてわかる ([今どっちを聞いた？では今度は？]) <th>読み方を発音できる (読んでください) <th>聞いて書ける (書いてください) <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th> </th></th></th></th>	聞いて書ける (書いてください) <th>文字の識別 聞いてわかる ([今どっちを聞いた？では今度は？]) <th>読み方を発音できる (読んでください) <th>聞いて書ける (書いてください) <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th> </th></th></th>	文字の識別 聞いてわかる ([今どっちを聞いた？では今度は？]) <th>読み方を発音できる (読んでください) <th>聞いて書ける (書いてください) <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th> </th></th>	読み方を発音できる (読んでください) <th>聞いて書ける (書いてください) <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th> </th>	聞いて書ける (書いてください) <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th> <th>問題</th> <th>解答</th>	問題	解答	問題	解答	問題	解答
大文字	(25) I E	(26) G Z	(27) B V	(28) N	(29) K	(30) J	(31) D	(32) L	(33) W	(34) b d	(35) q p	(36) f t
小文字	(37) c	(38) s	(39) o	(40) u	(41) g	(42) h	(43) a	(44) b	(45) c	(46) m	(47) h	(48) p
	(49) f	(50) r	(51) v	(52) city	(53) city	(54) city	(55) city	(56) city	(57) city	(58) city	(59) city	(60) city
C 単語	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ単語が読める (We Can! 2 Unit 5)
D 文	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)	音声で聞かれ続しんだ文が読める (We Can! 2 Unit 5)
	自分の名前が書ける	自分の名前が書ける	自分の名前が書ける	自分の名前が書ける	自分の名前が書ける	自分の名前が書ける	自分の名前が書ける	自分の名前が書ける	自分の名前が書ける	自分の名前が書ける	自分の名前が書ける	自分の名前が書ける